

アメリカ大統領

いささか旧聞に属すようになったが、アメリカの次期大統領は、今年の初めにはブッシュの弟とトランプが共和党の代表を争っていた。メディアは、民主党寄りだからトランプの方を推薦していた。なぜなら、トランプは政治家ではないから、ヒラリーの相手がトランプなら勝てるという思惑があったらしい。ところがトランプがでてきて、しかも選挙に勝ってしまった。相手のヒラリー・クリントンは、ずいぶん嫌われていたようで、成金不動産屋と嫌われヒラリーとの闘いであった。12月8日現在（つまり真珠湾攻撃の日）、アメリカを分断させているようだ。民主党はすでに開票を終えたところでも、再計算すると言うし、そんなもん、後進国の話である。トランプは、余裕で安倍さんなどと対談しているが、やはり賢いところがあって、オバマを無視していない。

評論家の木村太郎氏は、当初からトランプだ、と断言し、途中少しもぶれなかった。いくら世論調査でどうのこうのと言っても、変わらなかった。

史上最低の選挙と言われたが、性悪女のヒラリーになったら、また三菱自工のように裁判だらけになる。それも裁判所ぐるみの日本人いじめが始まる。トランプの方が本音を言うから、まだまし。

米在住の日本人に尋ねると、ヒラリーがなるよりはましやけど、どうせ1期4年の辛坊やから・・・

ヒラリーは、選挙戦終盤にFBIが調査していると言われたが、FBIがずっと調査をしていたのが国務長官のときの個人メールで国家機密を漏洩していた疑惑がある。（韓国にもあったが、まあスケールが違う）なぜかと言えば、アメリカの言うことに従わない国家に対し、いわゆるタカ派だから、オバマとの意見の相違があったとき、国家ぐるみであることを回避しようとしたからでもある。カダフィーが気に入らないからといていろいろ画策する。ベンガジ事件でアメリカ大使館の襲撃で、大使が殺された。その数か月後に国務長官を辞任したが、アメリカの傲慢を絵に描いたようなもの。他国の元首を抹殺しようなど、あつかましい。カダフィーは、「アラブの春」などと日本のメディアは騒ぐが、どれほど理解していることやら。女性にも教育の機会をあたえ、国民は、一部の不平分子を除けば、落ち着いていた国を騒乱に陥れ、破滅させようなどと卑劣なことを考える。片腹痛いわ！

（イラク戦争でもフセインを圧巻に仕立て上げ、結局は混乱をつくっただけで、

目論見通りの結果である。)

リンカーンの「人民の、人民による、・・・」も、黒人は「人民」ではなかった。有色人種も人民ではなかった。リンカーンが人種差別をしなかったなどと誤解している人も多そうだが、単なる無知です。

ニューヨークタイムズは、民主党寄りで、日本が嫌い。さんざんトランプの悪口を書くが、ヒラリーの悪口は少しだけ書いて中立のように見せかける。アメリカ人の考えそうなことや。日本のメディアは、トランプの品のない所作を仰々しく書き立てるが、目くそ鼻くそではなかったか。クリントン夫妻のしてきたことを考えれば、こんな連中に日本のことをあれこれ言ってほしくない。

さすがに選挙のやり直しはしないが、数えなおすなど、日本では村会議員レベルの話です。

2016.12.08.